

厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）
分担研究報告書

てんかんの地域診療連携体制推進のためのてんかん診療拠点病院運用ガイドラインに関する研究

徳島県におけるてんかんの地域診療連携

研究分担者：森 健治 徳島大学保健学科教授・てんかんセンター

研究協力者：多田 恵曜 徳島大学病院 てんかんセンター・脳神経外科

研究要旨

徳島県におけるてんかんの地域診療連携の状況を調査研究するにあたり、てんかん診療拠点機関の徳島大学病院 てんかんセンターにおける診療状況を集計した。2020年の初診患者は昨年と変わらなかったが、手術件数は増加した。逆紹介数を増やすことが、今後の課題である。

A. 研究目的

本研究の目的は、徳島県におけるてんかんの地域診療連携の状況を調査することである。てんかん診療拠点機関の徳島大学病院 てんかんセンターにおいて診療状況を集計する。

B. 研究方法

現時点の徳島大学病院 てんかんセンターを2020年1月1日～2020年12月31日までに受診した患者の集計を行った。

（倫理面への配慮）

本研究は診療情報の収集のみに拠っており患者への侵襲を伴わないため、生命倫理や安全面での問題は該当しない。研究では個人情報明らかになることはない。

C. 研究結果

2020年1月から12月までの徳島大学病院 てんかんセンターへの新患数は138人（小児25人、成人113人）。ビデオ脳波モニタリングは58人（小児31人、成人27人）。手術件数は14件、てんかん相談件数は225件である。

初診患者のうち、院内での紹介が25%、徳島県内からの紹介が59%、県外からの紹介が16%であった。受診理由はてんかん診断目的が46%と最も多く、トランジション10%、精神症状8%、薬物調整7%、手術目的6%等であった。

逆紹介の患者数は19人（2019年：10人）であった。

D. 考察

効果指標を設定し、てんかんセンター初診の患者

に関するデータを集計できる体制が構築された。

2020年は、コロナ感染予防に患者さんが取り組んだ結果、感染症全般が減少し、発熱、てんかん重積などのため徳島大学病院に入院する患者さんは減っており、長時間脳波モニター件数が減少した。しかし、新患数は昨年と変わらず、難治性てんかんに対する手術数は増加した。

初診患者においては、診断目的が最も多い理由であった。正確な診断が要求されている症例が多いことが推察された。

また、薬剤抵抗性、手術目的、精神症状に対する受診もあり、多職種がてんかんセンターに関与していることが徳島県下のてんかん診療に貢献していることが示唆された。

徳島大学病院から地域の病院に紹介する件数が、まだ少ないのが問題となっている。大学病院に患者がたまってしまう結果になってきている。

E. 結論

徳島大学病院がてんかん診療拠点病院に指定されたことで、徳島県下の多職種の連携が徐々に構築されてきており、てんかん患者のニーズに応えられるようになることが期待される。逆紹介数を増やすことが、今後の課題である。

F. 健康危険情報

該当なし。

G. 研究発表

1. 論文発表

1) Tayama T, Mori T, Goji A, Toda Y, Kagami S.

Improvement of epilepsy with lacosamide in a patient with ring chromosome 20 syndrome. Brain Dev. 42(6):473-476, 2020 (査読有)

- 2) Mori T, Goji A, Toda Y, Ito H, Mori K, Kohmoto T, Imoto I, Kagami S. A 16q22.2-q23.1 deletion identified in a male infant with West syndrome. Brain Dev 41(10):888-893, 2019 (査読有)

2. 学会発表

- 1) 多田 恵曜, 東田 好広, 中瀧 理仁, 藤原 敏孝, 森 達夫, 郷司 彩, 飯田 幸治, 森 健治, 高木 康志 : 徳島県におけるてんかん地域診療連携整備事業の活動状況. 第 7 回全国てんかんセンター協議会 広島大会, 2020 年

2 月.

- 2) 多田恵曜, 東田好広, 中瀧理仁, 藤原敏孝, 森達夫, 郷司彩, 山崎博輝, 森健治, 高木康志. COVID-19 禍での徳島県におけるてんかん地域診療連携整備事業の活動状況. 第8回全国てんかんセンター協議会総会 東京大会. 2021 年 2 月.

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得
該当なし。
2. 実用新案登録
該当なし